

玉垂

たまだれ
No.12

宮川沿いの紅葉

<http://www.okunijinja.jp/>



奉祝

平成十七年御鎮座千四百五拾年

小國神社崇敬奉賛会の設立

小國神社は欽明天皇の御代十六年（五五五）に御鎮座され、来る平成十七年には一四五〇年の佳節を迎えます。この慶祝の年に向け十二月一日付にて、既に組織されておりました「崇敬会」、「奉賛会」、「甲子講」の関係団体を集結し、新たに「小國神社崇敬奉賛会」をこの機に設立いたしました。崇敬奉賛会は当社の御神徳の宣揚に努め、併せて神域の保全、神社の発展に寄与することを目的としています。会員は目的に賛同する、個人会員、法人・団体会員、甲子講支部会員をもつて構成されます。また、目的達成のため当分の間は、御鎮座一四五〇年奉祝記念事業の奉賛に関することを主な事業としています。

明年四月の例祭は、御鎮座一四五〇年記念大祭として斎行し、神社本庁より献幣使の参向を仰ぐ予定であります。また、記念事業として、第一期（平成十七年）に「舞殿・舞楽舎お屋根替え及び修復」を実施いたします。国指定重要無形民俗文化財の十二段の舞楽が奉奏される舞殿及び舞楽舎は、建設以来一〇〇年の歳月が流れ腐朽化が進み、特に檜皮葺の屋根は最たるものとなっております。さらに第二・三期（平成十八年）には、予てより老朽化が進み懸案であった「斎館・社務所・参拝者休憩所の改築」を防災上の見地からも早期の対応が必要となつてまいりましたので順次実施の計画であります。

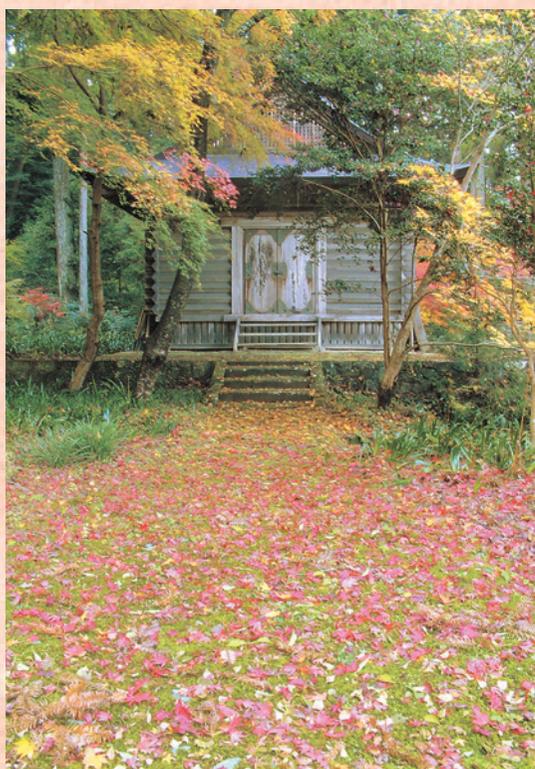
つきましては、御鎮座一四五〇年奉祝記念事業を実施するとともに、祭祀の厳修と御神徳の発揚に努め、古式舞楽の保存伝承並びに氏子崇敬者を始め様々な参拝者の利便に供したく存する次第であります。世情厳しき折りではございますが、何卒各位の深い御理解と格別な御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

年の瀬になりましたが、新潟県中越地震また台風襲来等の災害により甚大な被害を受けられました皆様方に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、氏子崇敬者各位におかれましては、良い新年をお迎え下さいますようお願い申し上げます。

紅葉まつりの開催

十一月下旬になりますと、境内に流れます宮川沿いの紅葉が晩秋を彩り始めます。それに合わせまして十一月最終の日曜日（本年は十一月二十八日）に、「紅葉まつり」を開催いたします。

例年、舞殿におきまして琴の奉納演奏を、また宮川沿いや手水舎横におきましてはお茶席を設け野点が行われ、参拝者休憩所では甘酒をご用意し様々にお楽しみいただいております。更に本年は門前にて森町茶商組合の有志によりお茶の接待・販売がされ、参道脇では今井シェフの「森のカフェテリア」がパンや温かい飲み物の販売をし、また宮川沿いでは、小國神社敬神婦人会によりま



宝蔵前の紅葉

しておしるこが振る舞われ、賑やかさが一段と増しました。

近年、当社の紅葉は周知されておりますようで、早くからお問い合わせも数お立ち寄りいただき、休日・平日を問わず大勢の方に紅葉狩りがてらご参拝いただきました。また、三回目となります秋の写真コンテストも開催となり、連日早朝よりカメラを手に格好のアングルを探す方々も見受けられました。

日中は、日光の加減により様々な色彩をお楽しみいただいているかと思いますが、本年は十一月最終の土曜日・日曜日の二日間、夜間（午後五時～午後九時）に赤い太鼓橋の附近をライトアップし、ひと味違った雰囲気を出いたしました。



むらさき会望月社中による琴の演奏



森町茶道愛好会によるお茶席



夜間ライトアップの実施



参道横・事待池の紅葉

新嘗祭の斎行・ 奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が少しずつ色付き始めてきた十一月二十三日、新嘗祭が斎行されました。御神前には氏子の皆様よりご奉納いただいた農産物がお供えされ、今年の豊穣を大神様にご報告し感謝申し上げます。

また、舞殿横では、第四十八回奉納農産物品評会を開催致しました。

今年は相次ぐ台風の上陸や天候不順の影響により農作物が不足しているなかでの開催となりましたが、氏子の皆様方の多大なるご尽力により、昨年の出品数を上回る三六二点もの出品をいただくことができました。さらに、精魂込めて作られた自慢の品々を大勢の参拝者にご覧いただくことができ、新嘗祭斎行後に行いました即売会も大盛況のうちに完売することができました。

ここに、受賞された方々をご報告させていただきます。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
(協力賞)

- 第一位 牛飼 部農会
- 第二位 宮代西 部農会
- 第三位 谷崎 部農会
- 第四位 中川上 部農会



新嘗祭の参進

第五位 橘 部農会
(小國神社賞)

- 白菜 円田上 鈴木 紀雄
- 柿 谷中 朝比奈弘子
- 大根 中川上 伊藤 誠
- 米 中川上 鈴木 定男
- 茶 中川上 木田 利吉

(遠州中央農業協同組合賞)

- 祝儀 宮代東 鈴木 克尚
- 生姜 宮代東 高木 千秋
- メロン 米倉 平田 秀幸
- 葱 円田下 久野 節生
- 大豆 上川原 鈴木 孝一

(小國神社振興会賞)

- 玉子 宮代西 山下 桂
- 白菜 大久保 天野 勝次
- 甘藷 草ヶ谷 中山 栄
- 米 上川原 野口 富彦
- 柿 谷中 佐野 真澄

(特等賞)

- 里芋 片瀬 天野 静平
- 大豆 米倉 山本 光男
- 焼鮎 草ヶ谷 高柳 節義
- 柿 谷中 朝比奈輝男
- レタス 谷中 鈴木 光子

(特別賞)

- 十二点出品 米倉 山本 光男

(敬称略)



振興会主催・奉納農産物品評会

篤志奉納者に感謝状の贈呈

十一月二十三日新嘗祭に併せ、年間に多額の浄財並びに物品等をご奉納いただきました方々に、感謝状と記念品が贈呈されました。

本年は、例祭時に装飾として使用する御本殿及び拝殿の御幕を甲子講世話人の坂本金之助様よりご奉納いただきました。この幕は、平成十七年(当社御鎮座一四五〇年)例祭より使用させていただきました。ここにご芳名を記載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 浄財 水野 修次 (草ヶ谷)
- 浄財 松下 昭 (大久保)
- 御幕 坂本金之助 (浜松市)
- 神饌米 鈴木 照男 (円田)

(順不同・敬称略)



坂本金之助氏ご奉納「御幕」

敬神婦人会の活動

秋も深まる十一月二十八日、宮川沿いの特設テントにて、当社敬神婦人会(小池まさ子会長)の役員の方々が、ご参拝の皆様におしるこの提供をいたしました。

前日に、役員有志が五〇〇杯分の小豆を煮るとともに、翌日お餅を切り準備をし、十時頃よりおしるこを振る舞いました。

当日は、晴天に恵まれご参拝や紅葉鑑賞の方々が賑い、特設テントの前は行列が出来るほどの盛況振りで、用意したおしるこは瞬く間になくなりました。

本年初めての活動でしたが無事に終える事が出来ました。ご奉仕下さいました役員の皆様、本当にお疲れさまでした。



敬神婦人会の活動 (11月28日)

拝殿部分改修工事の実施



虹梁設置

東海地震が危惧される昨今、明治十九年のご造営以来一〇余年の歳月を経た拝殿の耐震診断を「日本建築工芸設計事務所」に依頼しました。

診断の結果、構造上は南北の揺れには強度があるが、東西の揺れには弱い面があることが解り、補強方法を種々検討し、「虹梁」を設置することにしました。

設計を同事務所、施工を(有)大寶建設に依頼し、十月に完工致しました。ご参拝の皆様にご不便をお掛けする程の工事ではありませんでしたが、皆様のご浄財によりご造営した社殿を後世に伝える重要な工事でした。

中央の虹梁を、「えび虹梁」と言います。ご参拝の折りにご覧下さい。

合同消防訓練の実施



消防署・森町消防団との合同消防訓練

毎年、九月一日には、非常時に備え、当社職員での防災訓練を実施しております。本年は更に九月十九日の早朝、小國神社・袋井消防署分署・森町消防団の合同消防訓練を実施いたしました。

訓練想定に基づいた演習でしたので、実際に消防車両も導入され、職員にはいつもと違う緊張感が伺えました。出火確認とともに通報、火災報知器の作動から始まり、各自分担を把握した上での活動を行い、消防署の方のご指導もいただき、無事に訓練を終えることができました。

本年は、各地で天災にみまわれ、多くの被害もでております。特にこれからは火災の発生が多くなる季節を迎えますので、今回の訓練が非常時に活かされればと思います。まずは出火を防ぐために注意・点検を怠らないよう努めてまいります。

命 名

平成十六年六月一日

平成十六年十一月三十日



菊花展一小國神社賞・鈴木 智 殿一

相羽	五條	山田	瀬ノ口	鶴見	神谷	長瀬	高木	佐々木	村松	鈴木	佐々木	頂	藏	杉本	松下	野久保	岡田	山岸	松本
隼	仁湖	泰輝	愛華	柚季	朋希	大輝	稜太	千尋	祐奈	凛音	尚悟	奈	愛	登	凜	翔斗	瑞貴	夏子	拓也
湖西	袋井	袋井	雄踏	森井	袋井	袋井	京都	掛川	掛川	掛川	袋井	磐田	豊橋	森	小笠	豊田	福田	森	掛川
井上	永田	名倉	大崎	大城	松川	山下	村上	岩藤	後藤	加藤	村松	堀内	牧野	友田	澤中	朽木	寺田	森島	伊藤
優来	愛実	弘子	優輝	幸樹	玲也	陽都	武	沙治	良太	綾夏	歩美	木葉	綾子	隆二	菜緒	涼太	源都	珠理	巧馬
埼玉	袋井	袋井	袋井	袋井	小田原	袋井	森	竜洋	掛川	掛川	袋井	掛川	浜川	森	豊田	磐田	袋井	浜川	袋井

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

小桶	大場	沢山	杉山	山崎	青野	村松	丸山	木野	寺本	杉浦	山崎	鈴木	杉山	南澤	中山	松野	樽林	高橋	杉柳	水野	大川	松田	梅田	服部	久保	大鐘	大橋	伊藤	石黒	久野	木村	永田	鈴木	土井
結菜	萌々	京汰	瑛介	乃里	実紗	双葉	羽那	光咲	悠翔	辰生	瑞貴	千尋	佳奈	碧斗	千紗	和介	俊介	海音	陽稀	原隆	光矢	有紗	文音	友郎	一輝	慶大	彰真	渥	渚羽	優奈	彩華	寧々		
袋井	袋井	大津	森	掛川	浜川	森	舞阪	小笠	袋井	浜川	掛川	掛川	磐田	森	大須賀	磐田	浜川	東京	小笠	豊岡	掛川	袋井	菊川	磐田	大阪	福田	浜川	浜川	森	袋井	磐田	磐田		



國學院大學 大原康男教授・専攻科生参拝



元内閣官房副長官・石原信雄氏参拝（中央）

（右）平成十六年九月九日（木）午後四時、元内閣官房副長官でありました石原信雄氏がご参拝にいられました。打田宮司とは古くよりご親交があり、ご指導を戴いております。

（上）平成十六年十月二十九日（金）午後三時、國學院大學大原康男教授をはじめ専攻科生四十名が正式参拝されました。今回で二度目の参拝となります。今後、神社界での活躍を期待しております。

（下）平成十六年八月十八日（水）から十九日（木）の二日間、愛知県神社庁主催による青少年教化事業として、「僕と私の神社ウォッチング」が当社を会場に実施されました。参加の子供達にはよい思い出になったことでしょう。



浜名湖花博「のたねステージ」
—太平楽—

今年の四月八日より十月十一日までにわたり浜名湖花博が開催されました。期間中の九月十二日（日）は、「森町の日」にあたり当社舞楽保存会も出演いたしました。演目は、「太平楽」（子供四人による舞）で、限られた時間内での演奏のため内容を調整した練習が行われ、本番に臨みました。

当日は、天候も良く花博会場は大勢の入場者で溢れ、出演をいたしました「のたねステージ」も観客席はすべてうまっておりました。一日を通して出演した森町の各団体出演者には、大きな拍手が贈られていました。

浜名湖花博へ 舞楽保存会出演



愛知県神社庁主催
「僕と私の神社ウォッチング」—観—

小國神社振興会云研修旅行に
参加して

副会長 朝比奈秀昭

残暑の厳しい九月十六日、十七日に振興会の研修旅行が実施された。前回と同じ北陸への旅となった。大型バスが満席の状態で高速道路を一路北陸へ直行了した。

敦賀での昼食の後丸岡城へバスを進めた。福井平野を眼下にした小高い山頂にそびえ立つ天守閣からの眺望は絶景だった。また、丸岡は「おせん泣かすな馬肥やせ」の短文手紙発祥の地で優秀作品が周辺で目を引いた。

三国町郷土資料館には、かつての北前船の模型をはじめ、歴史の変遷を物語る多数の資料が展示され、見ごたえがあった。

夕方、二年振りの芦原温泉で旅の疲れをいやし、宴会は大変盛会となり、会員相互の親睦を図ることができた。

二日目は先ず白山比咩神社への正式参拝が行われた。ここは白山比咩大神を御神体とした全国三千余の白山神社



白山比咩神社正式参拝

の総本宮でかつては国幣中社であった。白山連峰の麓にうっそうと茂る杉や檜の大木に包まれた壮麗なお社に神々しさが漂っていた。五百人が収容可能な壮大な拝殿に感嘆の声が聞かれた。参拝の後に外へ回ると拝殿正面には長さ八メートル、重さ三百キロもの注連縄には驚愕した。宝物殿には貴重な文化財が数多く陳列され一層感銘を深めた。白山スパー林道はさすがに秘境を思わせる多くの滝や断崖の絶景に見惚れた。世界遺産に登録された白川郷の合掌造りは、生憎降り出した雨と時間不足に未練が残った。大方予定通りに無事故で終始なごやかに笑い声の絶えない楽しい研修になり大変有意義だった。参拝にあたり、白山比咩神社の職員の皆様方にはお忙しい中にも拘らず、種々御配慮いただいたこと、また、会員皆様のご協力をいただき深く感謝いたします。

まつり歳時記

十二月〜三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 十九日 鎮火祭 (午後三時)
- 二十三日 天長節祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十二日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 五日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 神明宮参拝 (午前八時半)
- 十一日 手鋸始祭 (午前九時半)
- 十六日 どんと焼祭 (午前九時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前十時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十六日 三日月三日 厄除大祭

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 九日 初甲子祭 (午前九時)
- 十一日 紀元節祭 (午前十時半)
- 十五日 竈社・飯子社・白樹祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十七日 鉦執社例祭 (午後一時半)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十六日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十七日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 十七日 神幸祭 (午後二時)
 - 十八日 御鎮座二四五〇年記念例祭 (午前十時)

師走の大祓

当社では清々しく新たな気持ちで新年を迎えるにあたり、十二月三十一日午後三時より古式に則り大祓式を行います。

大祓とは、日頃の不浄なものを人形に移し、心身ともに改めて清浄な姿に立ち返る神事です。

事前にお申し込みをいただいておりますが、ご参列の上お祓いをお受けいただければより意義深い神事でございます。人形は、当日まで社頭においてもおわけいたしておりますので、是非お申し込みの上ご参列いただきますようご案内申し上げます。

小國神社社務所 大祓係
TEL 〇五三八一八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八九一七三六七



師走の大祓

古代の森シリーズ12

神幸所

神幸所(御旅所)は四月十八日の例祭日に近い日曜日に斎行される神幸祭の際、臨時に御神霊を奉安する神聖な場所のことです。門前より参道を進み、事待池の北側の堀に囲まれた場所が神幸所になります。御輿渡御の中間にあたる最もふさわしい場所に位置し、神幸所内の殿舎に御輿が奉安されます。神幸とは「神のいでまし」のことをいいます。

神幸祭は神社の由緒と故事を伝える祭典で、大宝元年(七〇一年)の勅使参向と十二段舞楽を伝承する祭典であります。



神幸所 (しんこうじょ)

新春祈禱のご案内

来る平成十七年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。

当日の受付は混雑が予想されるため、当社では年内の予約受付をいたしておりますのでご利用下さい。

尚、一般祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。

また、新年は御鎮座一四五〇年を迎えます。この慶祝の新春に是非ご家族、



初 祈 禱

皆様お揃いでご参拝くださいますようお願い申し上げます。

一、予約対象 会社及び個人事業者
一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。

一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係

TEL 〇五三八一八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八九一七三六七



正月の社頭

—平成17年 厄年表—

男 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和21年 60才	昭和20年 61才	昭和19年 62才
女 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和40年 41才	昭和39年 42才	昭和38年 43才
男 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和57年 24才	昭和56年 25才	昭和55年 26才
女 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和45年 36才	昭和44年 37才	昭和43年 38才
男 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和49年 32才	昭和48年 33才	昭和47年 34才
女 性	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和63年 18才	昭和62年 19才	昭和61年 20才

厄除大祭のご案内

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難しいやしい年頃といわれ、無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

小國神社では一月二十六日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。平成十七年の厄年に当たる方は、「厄除」のご祈禱をお受けになります。日々の生活をお過ごし下さい。

尚、二月三日の当日は混雑致しますのでお早めにお越しくださいますようお願い申し上げます。

○祈禱料 五、〇〇〇円より

○厄除大祭及び御守を授与致します。

○祈禱受付 午前九時〜午後四時

氏子青年会の活動



拝殿のしめ縄作り

「小國の杜・点描」

小檀・小真弓（こまゆみ）

ニシキギ科ニシキギ科 落葉低木

ニシキギとは秋に葉や実が美しく色づくことを錦にたとえたもので、ギリシア語では「よい評判の」の意があります。マユミの名は、昔この木で弓を作ったことからと云われ、将棋の駒や箱類・印鑑に用いられハンコウノキとも呼ばれます。独自の趣が生花の花材として喜ばれます。

春龍胆（はるりんどう）

ハ Lindoウ科 Lindoウ属 多年草

リンドウは古くから薬効が知られ、漢方では根を乾燥させたものを龍胆と呼び、食欲不振や消化不良の際の健胃剤として、



小檀・小真弓（こまゆみ）



春龍胆（はるりんどう）

また、世界各地で殺菌・強壯剤として用いられました。うららかな陽光の光に蕾をほころばせ、苦菜・山彦菜・糖落・思草・狐蒲公英などの別名があります。

蜜柑（みかん）

ミカン科ミカン属常緑低く小高木

柑橘類の中で皮のむきやすいものをミカンと呼ぶことが多く、正月の鏡餅や上棟祭で餅と一緒に撒いたりするのは御馴染みの風習です。常緑樹であり、黄色の実は大陽の象徴、多産・繁栄を表すものとされ、古くより神聖な木として尊ばれてきました。



蜜柑（みかん）

雪柳（ゆきやなぎ）

ハラ科シモツケ属 落葉小低木

柳のように長くしだれる細い枝一面に純白の小花を多数つけることからの名で、コゴメバナ（小さな米粒のような花・エタコバナ）花の中央がくぼんでいるため）・ユキザクラとの別称もあります。愛らしさ・殊勝といった花言葉があり、春の訪れを感じさせてくれる花です。



雪柳（ゆきやなぎ）

雅楽演奏会



平成16年8月16日 雅楽演奏会の実施

編集後記

○「玉垂」第十二号をお届けいたします。今号は「秋の紅葉狩り」をサブテーマとしました。酷暑や台風上陸等があり心配でしたが、ここ数年來においては最も美しく色づいたことと思います。また期間も長かったのではないのでしょうか。新聞・テレビにも取り上げられることが多くなり、大分浸透してきたものと思われまます。

○振興会・朝比奈副会長より「研修旅行」の御寄稿を戴きました。隔年に実施とのことですが、白山比咩神社の参拝 懇親会等深く印象に残る研修であったと思われまます。

表紙写真について

平成十六年十一月二十六日(金)午前十一時、宮川沿の紅葉を撮影いたしました。下流の赤い橋付近よりも少し早く色づき、遊歩道を散策する参拝者の皆様方が多く見受けられました。

平成十六年十二月二十日
「玉垂」(たまだれ) 第十二号
題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七一〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七一
印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー